

老年看護学実習

ナンバリング:N3-S1-F04

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 野里 同 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	4	区分/単位数	実習/4単位
期間	前期		

・学修方針(講義概要等)

老年期にある対象および家族を総合的にとらえ看護を展開する。看護過程の展開では、アセスメント能力・問題解決能力を身に付け、個々に応じた看護を実践するとともにセルフケア能力の向上を図る看護を習得する。さらに、生活の場が移行し療養が必要になった高齢者を包括的に理解し、対象および家族に必要な看護を実践する能力を習得する。医療および福祉の連携の必要性を理解し、その中での看護師の役割およびチームアプローチの必要性を学び、自立の援助や患者のQOLの向上を図る知識・技術を身に付ける。

・教育成果(アウトカム)

病院実習では、一人の患者を受け持ち看護展開することによって、高齢者の生活史や価値観の多様性を理解し、患者のもてる力に視点をおいた看護を展開する能力を養うことができる。また、慢性疾患や障害がありながらも生活している高齢者の生活機能の観点からアセスメントすることで、高齢者がどのような生活を望んでいるのかを理解し、生活に即した目標志向型の看護を実践することができる。介護施設実習では、地域で生活している高齢者との関わりや生活援助を実施することによって高齢者が生きてきた時代背景や生活史から「その人らしさ」の理解を深めることができる。また、疾患や身体機能・認知機能の加齢による変化を把握することにより、それらが生活にどのように影響しているか生活機能の視点で考えることができる。施設の役割・機能を学ぶことによって医療および保健・福祉の必要性やその中での看護師の役割を学び高齢者のQOL向上のための支援方法を身につけることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 高齢者を疾患や障害を有している生活者として幅広く捉え、目標志向型を用いた看護過程の展開ができる。
・高齢者の生活習慣と健康障害との関連を理解し、機能低下が日常生活や社会面に及ぼす影響についてアセスメントできる。
・高齢者と家族が置かれた背景や希望を把握し、生活を見据えた個別性のある看護を実践できる。
2. 加齢や障害による身体機能・認知機能の変化に応じ、もてる力を活かした支援が実践できる。
3. 高齢者看護における多職種連携の必要性と看護師の役割を理解し、対象者へ支援できる。
4. 老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、高齢者を尊重する態度を身につけることができる。
5. 高齢者の生活を支えるための看護について考えを深め、言語化することができる。

・実習日程

日程	各グループの実習期間は実習要項等に記載する。
担当教員	地域包括ケア講座 野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教
授業内容/到達目標	【授業内容】 病院実習(2週間) ・一人の患者を受け持ち目標志向型の看護過程を展開する。 ・個々の健康レベルに応じた看護を実践できる。 (詳細は、実習要項を参照) 施設実習(1週間) ・多くの高齢者に関り、生活に視点をのいた援助とサービスの活用を実際に体験・見学することで、地域で暮らす高齢者のQOL向上のための支援方法を身につけることができる。 (詳細は、実習要項を参照) 【関連するSB0】1、2、3、4、5 【事前学修:60分/日】 実習に関連する病態生理やその支援方法などについてテキストや文献等を調べる 【事後学修:90分/日】 看護過程の展開や毎日の振り返りなどをまとめる

・教科書・参考書等

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 第8版	堀内ふき	メディカ出版	2025
教	ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践 第7版	堀内ふき	メディカ出版	2025
参	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版	山田律子	医学書院	2020

・成績評価方法

【総括的評価】 実習記録・実習態度など評価表に基づき点数化し病院実習70%、施設実習30%とし総合評価する。 【形成的評価】 毎日の実習において実習の振り返りの提出を求め、学習の成果と今後の課題を確認する。
--

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 実習期間中は、実習記録の進捗状況や実習目標の到達度、また、学生が困っていることなど教員と面談しながら進める。そのなかで、知識・技術・態度に関するフィードバックを行いながら、自己の課題に取り組む。 また、日々のカンファレンスでは、患者との関わりの中での疑問点・ケアについての悩みなどに関して問題解決していく。 援助方法については老年看護学演習で実施したWebClassにある動画などを参考に取り組む。 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):臨地実習 老年看護学 【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			